

◎アトロピン硫酸塩注 [注]

【重要度】★ 【一般製剤名】アトロピン硫酸塩 (U) atropine sulfate 【分類】副交感神経遮断剤

【単位】◎0.5mg/A [1mL]

【常用量】1回 0.5mg

【用法】筋注, 皮下注 [場合により静注]

【透析患者への投与方法】透析患者の投与方法に言及した文献はないが, 尿中排泄率が高いため反復投与時には1/2に減量を考慮 (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】Ccr>50mL/min : 減量の必要なし, Ccr 10~50mL/min : 反復投与時には1/2~3/4に減量, Ccr<10mL/min : 反復投与時には1/2に減量を考慮 (5)

【特徴】抗コリン作用を有し, 心臓, 腸管, 気管支の筋において他のペラドンナアルカロイドより作用が長くかつ効力が強い。肝で酵素的加水分解によって代謝され, 作用時間は非経口では短時間である。迷走神経遮断作用のため徐脈性不整脈の軽症例に一時的に使用される。

【主な副作用・毒性】ショック, アナフィラキシー, 散瞳, 心悸亢進, 呼吸障害, 血圧低下, 口渇, 便秘, 排尿障害, 視調節障害など

【モニターすべき項目】眼圧

【吸収】内服した場合95% (11) 点眼により全身循環に吸収されるが循環動態への影響は認めなかった (Lahdes K, et al: Clin Pharmacol Ther 44: 310-4, 1988 PMID: 3046815)

【F】75% (14) 50% (13) 点眼で63.5% (Kaila T, et al: Acta Ophthalmol Scand 77: 193-6, 1999 PMID: 10321537)

【tmax】筋注投与時9min (13) 【Cmax】0.02mg/kg 投与時2.6ng/mL (13)

【代謝】肝で代謝 (加水分解) (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率30~50% (U) 57% (13) 55% (14) 1体として34% [im, 6hr まで] (Kentala E, et al: Int J Clin Pharmacol Ther Toxicol 28: 399-404, 1990 PMID: 2228327)

【CL】16.2±3.6mL/min/kg [im] (1) 1167mL/min (10) 8mL/min/kgで加齢により低下 (13) 【非腎 CL/総 CL】45% (10)

【t1/2】2.5hr (U) 2.2hr (10,14) 2~5hr (11) 3.5hr, 加齢により延長 (13) 4hr (Adams RG, et al: J Clin Pharmacol 22: 477-81, 1982 PMID: 7174856)

【蛋白結合率】中等度35~64% (U) 45% (10) 50% (1,11) 14~22% (13)

【Vd】3.3L/kg (10,14) 1~6L/kg (11) 2.0L/kg (13) 3.5±1.5L/kg (1)

【MW】694.8

【透析性】Vdが比較的大きいため, 透析で効率的には除去されないと思われる (5)

【TDMのポイント】TDMの対象にならない

【薬物動態】PK, PDに性差なし (Kanto J, et al: Acta Anaesthesiol Scand 31: 202-4, 1987 PMID: 3577642) PKは運動により変化する (Kamimori GH, et al: Eur J Clin Pharmacol 39: 395-7, 1990 PMID: 2076724)

【O/W係数】60 (11)

【相互作用】プロポフォールが必要量が增加する (Takizawa E, et al: Drug Metab Pharmacokinet 21: 384-8, 2006 PMID: 17072091)

【効果持続時間】短い (経口投与では4~6hr) 静注後12~16分後に脈拍数が最大となる (Adams RG, et al: J Clin Pharmacol 22: 477-81, 1982 PMID: 7174856)

【更新日】20220111

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。